

式辞

湯崎広島県知事、林広島県議会議長をはじめ、ご来賓の皆様方、ご多忙のなか、本学の入学式にご光来賜り誠にありがとうございます。

衷心より御礼申し上げます。

県立広島大学および大学院にご入学の皆様、おめでとうございます。ご家族・ご関係の皆様、お祝い申し上げます。

この広島県で皆様が学生生活をお送りになるのは、大変幸せだと私は確言できます。

なぜなら、広島は自然や街は、大変美しいのです。広島市の街は道路も広く、電線の地中化率が東京23区について高いので、広島は印象派を生んだパリのように綺麗な街です。平和大通りなど、花一杯の歌壇が随所にあり、私はパリのボンヌフやシャンゼリゼを思い出します。川は水量豊かにゆったりと流れ、船が浮かび、人口116万人の大都市の都心の川でシジミ漁が行われるほど水も綺麗で、フランスの名画を数多く展示するエレガントな美術館もあります。47都道府県のなかで、国宝建造物の数は全国5位ですから、皆さまには一級の文化を楽しんでいただけます。スポーツでは、海のレジャー拠点は全国第1位、釣り人口比率は3位です。キャンプ場の数は6位ですし、極近くの関西の人でも知らない人が多いのですが、広島にスキー場は20近くもあるのです。

それだけでなく、広島県議会事務局発行の平成24年版『指標でみる広島県勢』によりますと、広島は中四国以西で製造業出荷額が最も高い県で、産業の集積もあつく、勤労者世帯の貯蓄額は全国6位で、負債額はなんと45位と大変少ないのです。

本学はキャンパスが、広島市、庄原市、三原市と、広島県のほぼ全域に展開しておりますし、3キャンパス間の交流も行っていますので、「広島県全体が本学キャンパス」と言っておりますが、ぜひ皆さまに広島の自然や文化の、美しさ楽しさを発見していただき、それとともに鉄鋼、造船、自動車等、世界に貢献する広島の経済活動の躍動ぶりを日常的に感じ取っていただきたいと思います。また、広島では、おそらく日本はおろか世界のどの都市で学生生活を送るよりもより深く、平和の問題を毎日意識し考えることになりまますから、広島は、世界の将来を考えるべき若き学生諸氏が学生生活を送るには、最高の地だと思います。

その広島で、楽しみになりながら、どうかしっかりと勉学に励んでいただきたいと思います。実は、現代は、勉学がとりわけ大事になっています。

源氏物語の若菜の下に、光源氏が紫上と語り合い、「女子（おんなご）を生ほ（おお）したてんことよ（女の子を育てていくことは）、いと難（か

た)かるべきわざなり」という場面があります。当時の女性の自立は難しく、その人生は男性に左右されることが多いことから、この言葉がでてくるのですが、この言葉は、今でも女性にとってまだまだその通りであります。現代では、男女を問わず、また年齢を問わず生きていくのが大変難しくなっています。

ITを含め技術も高度化し、経済社会は複雑性を増し、グローバル化で、異文化理解の必要性が高くなり、価値も多様化して、組織の中で仕事をこなすのも大変になり、多様な人々とのコミュニケーションが難しさを強めています。

有名な名作映画「海の上のピアニスト」は、豪華客船という閉じられた空間では、ピアノの名手として自信をもって生きていけたピアニストが、船を下りようとしたとき、船の外の複雑性・多様性にたじろぎ、タラップを再び登り船に戻ってしまうのです。

しかし、この映画のように、もどるところがあればいいのですが、経済的停滞のつづく厳しい今の世界では、もどる船や戻るべき元の仕事はなくなってしまうことが多いのです。

このとき、皆さまにとっての最強の力は、勉学です。世の中や、いろいろの組織の課題を自らみつけ、創造的に解決策をつくり、それを実行する企画をたて、組織化して、指揮できる能力を磨くのは、高等教育を行う大学の役割です。かつて、経済史の大家角山栄教授は、「明治以来日本の大学は発電所だった。欧米で開発された新しい技術や知識を、そのままでは理解し利用するのが難しかったため、電圧を下げて日本で使えるようにするのが大学の役割であった。しかし、大学の本来の役割は新しい技術・知識を生み出す発電所である」とされていました。そして、今日の日本の一流の大学は研究力を高めて、発電所になっていますし、本学もその一翼にあると私は確信します。

卒業式の式辞でお話ししましたので、ここでは具体的な数字は省略しますが、本学の研究力は、日本の一流国立大学に並ぶとも劣らないといえますし、学生諸氏が発電できる能力をもてるように、卒業論文を全員に書いていただいております。しっかりと実力をつけてください。

ところで、専門能力とは別に、多様な人々とのコミュニケーションが十分できるようになるには、多様な人々の生き方や考え方を深く理解できることが大事です。そのためには、優れた文学を読み一級の芸術に親しんでください。本学の図書館の充実度は全国的に折り紙つきですし、図書の本数、借出し数は、中国地方の5つの国立大学の1.5倍から2倍ほどで大変高いのですが、皆さまはもっともっとお読みください。そして、美術館やコンサートにもしばしば出かけ教養を高めてください。そうすれば、コミュニケーション能力は飛躍的に高まるでしょう。

そうして、力を蓄えたら、皆さまご自身が幸せになれると思いますが、皆さまご自身が幸せになれば、その力を広島のため、日本のため、

そして広く地球社会のために役立ててください。世界はそれを期待しています。

最近の数年とりわけ、厳しいことが増えています。こうしたときには、ドイツの詩人、ツェーザル・フライシュレンの次の詩を思い出していただきたいと思います。この詩はドイツの家庭などでは、よく壁にかけられていますし、山本有三の書物「心に太陽を持つて」の題名として使われていますから、ご存じの方も多いと思います。

心に太陽を持つて。
あらしが ふこうと、
ふぶきが こようと、
天には黒くも
地には争いが絶えなかりと、
いつも、心に太陽を持つて

くちびるに歌を持つて
軽く、ほがらかに。
自分のつとめ、
自分のくらしに、
よしや苦勞が絶えなかりと、
いつもくちびるに歌を持つて。

苦しんでいる人、
なやんでいる人には、
こうってはげましてやろう。
「勇気を失うな。
くちびるに歌を持つて、
心に太陽を持つて。」

平成24年4月5日

県立広島大学
学長 赤岡 功